

教材について	本グループの児童は、身近なものに見立てたものを作り続けたり、仕方やルールなどを友だちに提案したりして遊ぶことが多い。また、ルールや勝敗のある学部合同の遊びの中では、友だちと協力して遊ぶ姿も見られるが、比較的自由度の高い遊びの中で、友だち同士でかかわることは少ない。 本実践の食べ物屋さんごっこは、児童たちが日頃利用している飲食店を取り上げることで、料理などに見立てたものを作る活動が仕組み、児童たちが興味・関心をもちやすいと考えた。また、店員と客という明確な役割があり、児童の興味・関心に応じたお店を複数設置することで、メニューを注文する、注文に応じて料理を作って渡す、ものの貸し借りをするなど、友だち同士でやり取りをしながら遊ぶことが期待できると考えた。		
	中心となる内容の学習指導要領の段階と内容	生活科 小学部3段階 オ 人との関わり	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容
	知・技：(イ)身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。 思・判・表：(ア)身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。		国語科 小学部3段階 A 聞くこと・話すこと
	学 び：ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。		小学部 図画工作科3段階 A 表現
		配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容	思・判・表：ア(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。

題材目標	知・技	『食べ物屋さんごっこ』のフードコートリーダー役になって遊ぶ時、友だちが楽しく遊ぶために協力することのよさがわかり、店員役や客役の友だちの困りを聞き、物の配置や材料・道具の使い方などを変えながら遊ぶ
	思・判・表	『食べ物屋さんごっこ』の様々な役になって遊ぶ時、注文に応じて料理を作って渡す、遊んでいる友だちの状況に応じて物の配置や材料・道具の使い方などを変える、友だちに困っていないか尋ねる、友だちの店で注文するなどして、30分程度続けて遊ぶ
	学 び	遊びを続ける中で、自分で友だちが困っている状況に気づき、友だちに協力して遊ぶ
	配 慮	・友だちの困りの内容を聞き取り、考えたことを友だちに伝える(国語科) ・材料や創作道具、遊んでいる友だちの状況などから考えたものを作る(図画工作科)

授業評価	知・技	困っている様子の友だちに、自分から「大丈夫？」などと言葉をかけ、友だちが料理を置くことができるように物の配置を変えるなどして遊ぶようになった。
	思・判・表	店員役で客役の友だちの注文に応じて料理を作って渡す、困っている様子の友だちに自分から声をかけて困りを尋ね、不足している道具を持って来て友だちに渡すなどして、30分程度遊ぶようになった。
	主 体	店員役で客役の注文に応じて遊び続ける中で、困っている友だちの状況に気づいて、困りを尋ねて物の配置を変えたり、道具の使い方を決めたりして遊ぶ姿が見られた。
	配 慮	・友だちの困りを聞き取り、「はさみを借りて(友だちに貸して)いい?」「ここにあるよ」などと伝えることができた。(国) ・画用紙と紙皿を組み合わせた鉄板に見立てたものや、白のひもを泡に見立てた飲み物を作ることができた。(図)

ポイント

友だちの困りに目を向け、協力するよさを理解するための働きかけの工夫

教師と一緒に困りを聞く

●●さん、お皿がなくて困ってるの。どうしたらいいかな…

お皿を増やそう!

お皿がない…

ありがとう!

うれしい!

教師の言葉かけを聞いて(困っていることを伝える)

●●さん、困っているみたい

机がせまい…

こっちの机と変えよう!

教師の問いかけを聞いて(友だちが遊んでいる様子を伝える)

どうしたらいいんだ…

●●さん、どうしたのかな?

●●くん! どうしたの?

友だちの状況に応じて

どうしたらいいんだ…

●●くん! どうしたの?

友だちに協力してよかった!

みんなが楽しく遊べてうれしい! ばくも楽しいな!

▲▲さんが助けてくれたからみんな楽しく遊ぶことができてるよ!

協力することのよさを意味づける

ポイント

協力することの必要性を感じることができるようにするための教材と場面設定の工夫

友だちの困りが自然に生じるようにした場面設定(教師が解決の支援も可)

物の不足

あそこにある!

増やそう!

物の配置

こっちに置こう!

入れかえよう!

友だちの状況に目を向けるための役

ぼくはリーダー!

みんなのために!!

フードコートリーダー

考察	○題材開始前のグループ全体の遊びの実態は平行遊びが中心であり、やり取りをしても、その相手は教師であることがほとんどであった。しかし本実践を通して“客役の友だちの注文に応じた料理を作って届ける”、“客役の友だちに感想を尋ねる”、“友だちの困りに気づいて助けに行く”など、友だちとやり取りをして遊ぶ姿が見られるようになった。 ➡友だちが喜ぶ様子を示し、友だちとのやり取りの楽しさや、協力することのよさを意味づけることで、料理を作る楽しさだけでなく、友だちとかかわる楽しさに目が向いてきていると考える。引き続き、友だちとのかかわりが増えるような教材を検討して指導していきたい。
	○題材開始時は、児童の遊びを阻害することなく、焦点化した働きかけをすることが難しかった。 ➡それぞれの児童のねらいに対する働きかけや児童同士の関連などをフローチャートで整理し、教師間で確認することで、それぞれへの働きかけを具体化することができた。児童が遊びを楽しみつつも、それぞれの児童のねらいにせまる働きかけをするために、場面設定や働きかけとその意図を教師間で共通理解して指導することの重要性を改めて感じた。そのため、自身の動き方、どのように働きかけるかについても十分に検討していきたい。